

★★★ <第35回知的財産翻訳検定試験【第6回中文和訳】> ★★★

《中国語》

【問1】

【書類名】特許請求の範囲

【請求項1】

貯水タンク（1）とハウジング（6）とを備えた自動洗浄とスケール除去が可能な電磁給湯器であって、

前記貯水タンク（1）の上部には、水平横置きに貯水タンク（1）に固定された加熱スリーブ（2）が設けられ、前記加熱スリーブ（2）の内側には管状の電磁加熱体（3）が取り付けられ、加熱スリーブ（2）の両端にはそれぞれ洗浄管継手（7）とスケール排出管継手（8）が設けられており、

前記加熱スリーブ（2）は内管（21）と外管（22）を含み、前記内管（21）と前記外管（22）はその両端にある環状のスリーブエンドカバ（24）とで囲むように湯室を形成し、前記洗浄管継手（7）とスケール排出管継手（8）は両端の前記スリーブエンドカバ（24）の底部にそれぞれ設置されていることを特徴とする電磁給湯器。

【請求項2】

前記洗浄管継手（7）には洗浄水管（71）が接続され、前記スケール排出管継手（8）にはスケール排出管（81）が接続されていることを特徴とする請求項1に記載の電磁給湯器。

【問2】

【背景技術】

パルプ化製紙工程で発生する廃水汚染物は、成分が複雑で、色度が高く、処理が困難で、且つ排出量が多いため、環境汚染を引き起こす主な汚染源の1つになっている。現在、パルプ化製紙で発生する廃水は、一般的にすべて一次の物理化学的処理と二次の生物化学的処理によって処理されているが、水質は、依然としてCODの含有量が高く、色度が高いなどの問題があり、GB 3544—2008のパルプ化製紙工業水汚染物排出基準の要件を満たすことは困難である。そのため、パルプ化製紙の廃水に対して高度な処理を行い、CODの含有量をさらに低減させて水質を向上させることは、環境保護及び製紙産業の発展にとって重要な意義と幅広い応用の可能性を有する。

よく見られる高度処理法としては、物理化学法、生物化学法及び促進酸化法などがある。そのうち、物理化学法には凝集法、吸着法、膜分離法等があり、

生物化学法には好気性生物化学法、嫌気性生物化学法等があり、促進酸化法には硫酸イオンラジカル（ $\text{SO}_4^{\cdot-}$ ）による促進酸化法、フェントン酸化法、オゾン酸化法、光触媒酸化法、電気化学酸化法等がある。

### 【問3】

#### 【発明を実施するための形態】

以下、本出願の実施例における図面を参照しながら、本出願の実施例における技術案について説明する。

本出願の説明において、「第1」、「第2」等の用語は、区別して説明するためにのみ使われ、相対的な重要性を示したり暗示したりするものとして理解してはならない。

本出願の実施例にて提供される起動電流最適化方法は、以下のステップを含む。

ステップS100：予め設定された回数分が記録されるまで、アクチュエータの動作の変化が予め設定された動作閾値よりも大きくなる度に、アクチュエータの動作電流を記録する。

ステップS200：記録された複数の動作電流の平均値を計算し、平均電流として記す。

ステップS300：予め設定された調整係数を用いて平均電流を調整し、調整された平均電流に基づいて現在の起動電流を更新する。

動作電流の大きさはアクチュエータの動作幅を反映し、複数の動作電流の平均値によってアクチュエータの起動電流Lの変化を反映することができる。したがって、アクチュエータの動作のフィードバックを利用して、起動電流を最適化し、手動による設定の作業量が大きく設定が不正確な問題を回避することができる。